



ワムタウン広場

WAM Town Open Space !

発行 一般社団法人ワムタウン推進本部
〒359-1131 埼玉県所沢市大字久米 554 番地 2
TEL 04-2941-3640 FAX 04-2941-3641
http://www.wam-town.jp/ E-mail:koho@tl-wam.or.jp

協力 医療法人啓仁会
医療法人昭仁会
社会福祉法人栄光会

WAM TOWN

7月

第120号 2020年/令和2年7月1日(水)

新型コロナウイルス感染症の院内発生をふりかえって

医療法人啓仁会 所沢ロイヤル病院 (埼玉県所沢市) 院長 金子 正二

はじめに、当院において新型コロナウイルス感染症の院内感染によりお亡くなりになられた患者様のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にご挨拶とお悔やみ申し上げます。また罹患された患者様やご家族に心よりお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の院内発生に伴い、患者様・ご家族、地域の皆様、地域医療機関・介護事業所その他多くの皆様に対して多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

国内で令和2年1月16日に最初の新型コロナウイルス感染症が確認されてから瞬く間に感染が拡大し、4月11日には1日あたり最多の720名の感染が確認され4月16日に全国で緊急事態宣言が発動されました。6月15日現在17,601名の方が感染し、934名の方が亡くなる未曾有の事態となりました。

このような状況の中で当院の地域包括ケア病棟において4月8日に新型コロナウイルス感染症が確認され、それから4月13日までに病棟入院中の患者様30名、職員55名のPCR検査を実施した結果、患者様7名・職員2名が新たに陽性と判明し感染の広がりが明らかになりました。

ようやく地域包括ケア病棟の感染が落ち着き始めた5月12日、回復期リハビリテーション病棟から陽性患者様が2名発生しました。陽性判明から5月15日までに、当該病棟においても患者様50名、職員94名に対しPCR検査を実施したところ、患者様3名、職員2名の陽性者が判明しました。

感染が確認された当初は、サージカルマスクやガウンなど感染防護具が不足し、十分な対応ができない状況のなか、当該病棟の職員を即日自宅待機させるため当日の夜勤は急遽他の病棟から配置したほか、それ以降も家族への感染を懸念して自宅に帰れない職員や保育所からお子様の受け入れを拒否される職員もいたため人手不足は深刻でした。

新型コロナウイルス感染症対策については、厚生労働省や日本感染環境学会等から日々更新されるガイドラインや指針に基づき、毎朝院内

感染対策本部で検討し対応に追われることとなりました。

職員一丸となって懸命に努力を重ねた結果、最終感染が確認された5月27日から14日間、院内感染が確認されていないことから、狭山保健所の指導のもと院内感染は収束に至りました。

感染拡大の大きな要因として、喀痰吸引や口腔ケアなど飛沫による感染リスクや、認知機能の低下があっても行動抑制をすることなくスタッフが見守りや介助にかかわることが濃厚接触となりうる状況だったことが挙げられます。

一方で更衣室や職員食堂など多職種の動線が交差する環境での感染予防策が不十分なことや標準予防策の周知徹底がなされていないことも一因であったと考えています。

以上を踏まえ、今後の対応について次のとおり策定しました。

- ①新型コロナウイルス感染症の早期診断のために医師が必要と判断したときに、速やかにPCR検査もしくは院内で実施可能な代替検査を実施する。他の臨床所見や画像診断を併用し慎重に対処する。
- ②職員全員の常時マスクの着用、患者様に接する前後の頻繁な手指消毒を徹底する。また、吸引等によりエアロゾルが発生する際には、フェイスシールドや防護服の着用など適切な予防策を取る。
- ③感染制御チーム（ICT）を中心に、職員一人一人が正しく標準予防策が行えるよう教育、指導を徹底する。
- ④病棟休憩室、更衣室、職員食堂など職員同士が密となる空間の使い方を改め、職員が病棟間を交差して患者様に関わることをしないよう業務のあり方を考える。
- ⑤外来においては、有熱者の受診時間を決め別の場所に対応する。また、病院玄関において、受診者を含む外来者に対しては熱の計測、手指消毒の励行を徹底する。
- ⑥今後入院される方は、入院より当面2週間は個室にて経過観察をする。また、食堂での食事や入浴、リハビリテーションなど密にならないような医療、ケアを提供できるよう工夫する。

⑦感染制御チーム（ICT）の組織を見直す。そのうえで、医師や看護師だけでなく病院職員、委託業者を含む病院にかかわる全てのスタッフが、感染に対する正しい知識、技術をもって業務に携われるような仕組みづくりをする。

これらを遵守し、今後も必要に応じて適切な措置を取っていきます。

最後になりましたが、これまでの地域の方々やご家族様、民間企業、学校や行政機関など多くの方々から医療物資・食事提供・寄付金・メッセージなどの心温まるご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

こうした皆様からのご支援が、職員にとって何よりも心の支えとなり励みとなって、厳しい状況のなか懸命に医療に従事することができました。

結果として、二つの病棟合わせて5名の患者様がお亡くなりになりました。様々な基礎疾患をお持ちで、ご高齢の方の入院が多い当院においては、このような感染症のアウトブレイクを二度と起こしてはいけないと肝に銘じこれからの医療に取り組んで参ります。

わたしたちのこの地域での役割は、ポストアキュート、サブアキュートの患者様をもう一度在宅へ戻す懸け橋となること、そして最後まで安心して住み慣れた地域で過ごせるよう支援することです。

当院の理念である「安心して良質な医療」を提供できる病院として再生し、地域に貢献できる病院を目指します。今後とも、ご支援くださいますようお願い申し上げます。



皆様からの温かいお言葉に感涙



イタリアンレストラン otto 様より美味しいお弁当の差し入れ



GRILL TOKYO 様キッチンカーで、できたての熱々ランチを



株式会社ヨシガワ様よりフェイスシールドをいただきました(左は岡田しずか県議)

出前講座に参加しました

医療法人啓仁会 訪問看護ステーション 豊川さくら(愛知県豊川市) 看護師 伊藤 智恵

訪問看護ステーション豊川さくらでは、昨年度より訪問看護師として「出前講座～専門職による看護・介護講座～」に参加させていただいています。

この講座では、豊川市医師会在宅医療サポートセンターが中心となり、ケアマネージャーや、訪問看護師、豊川市介護高齢課職員が老人会などの集いの場に赴き、グループワーク形式で在宅における医療・看護・介護について、地域の方々とお話をさせていただいています。

いま、少子高齢化に伴い「地域包括ケアシステム」の構築が推進されています。「地域包括ケアシステム」とは、高齢者を支えるサービスを地域で一体的に提供するシステムのことで、そこに住む高齢者がその地域で自分らしい生活を最期まで持続していくため、介護

や医療、さらには住まいや生活支援の提供を行うことを言います。

「出前講座～専門職による看護・介護講座」では、「具体的にどのような支援策があり、どのように支援が提供されていくのか、対象となるのはどのような方か、手続きは・・・等々、疑問点の解決のお手伝いをし、地域包括ケアシステムの理解と有効活用の促進を狙いとしています。

老人会などの集いに参加される方々は、高齢であってもあまりご自身は介護の必要がなく、なかなか在宅看護や介護についてのイメージが湧かない、全く分からない、とおっしゃる方も多くみえました。約1時間という短い時間内でそのような方々に地域包括ケアシステムへの興味を持っていただき「もしも自分が利用する立場になったらどうしたいか」をイメージしていただく。そして、その実現のためにはどうすべきか、何が必要か等考えていただく。ここまで到達するには難しいこともありましたが、一方でご家族や友人、近所の方の中に気になる様子の方がいる、こういう場合はどうしたらよいか?などの相談事話される方もみえました。また、ご家族に在宅医療・看護・介護の利用経験がある、または現在利用しているという方もみえ、



「高齢者相談センターについて」

少しずつでも地域包括ケアシステムの浸透を感じることができる機会でもありました。

現在も新型コロナウイルス感染予防対策のため外出自粛要請が続いており、この出前講座を含め様々な行事等が中止となっています。全国的にも緊急事態宣言が解除され、愛知県独自の緊急事態宣言も解除されましたが、まだまだ気を引き締めて感染対策を継続することが必要な状況であり、日常生活への回復の道りは遠いと感じています。外出自粛要請が続く中で、高齢の方々が自宅にこもり他者と関わる機会が減ったり失われることにより、身体・認知機能面の低下などの悪影響が懸念されます。

新型コロナウイルス感染拡大の不安解消と、地域の高齢者の方々と対面でお話ができる貴重な機会である出前講座の再開を心待ちにしています。



男性グループ。ケアマネの説明を熱心に聞かれています

今年アイデア賞を受賞

医療法人啓仁会 介護老人保健施設 所沢ロイヤルの丘(埼玉県所沢市) ケアワーカー 小林 成夫

この度、所沢ロイヤルの丘 通所リハビリテーションにて作成しました壁画作品『新しい未来へ』が「月刊デイ」で募集の「自慢のレク・クラフト大集合」展でアイデア賞を受賞し、7月号誌面に掲載されました。昨年の入賞に続き、連続しての受賞となりました。

新型コロナウイルスの影響で事業縮小している最中、アイデア賞を受賞した事の喜びを通所リハビリテーションご利用中の皆様と大

いに喜びたいと思います。

新たな元号への希望を込めて、少しずつ制作し完成した『大きな片道切符』です。※今回の製作はポールピクチャーです。(薄い紙をたくさん丸めて作った作品の事)。



▲アイデア賞の受賞

月刊デイ7月号に掲載されました▶



ロイヤル・ワム・タウン 写真館 vol.32

社会福祉法人栄光会
ロイヤルの園 居宅介護支援事業所
主任介護支援専門員 千葉 昇二



道端の花 (この花をご存じの方がいらっしゃいましたら、ぜひ教えてください)

【コメント】

今年の春は皆様にとって特別な春であったことをお察しします。いつものよう気ままに散歩できることのすばらしさ、見知らぬ街を散歩すること、雑踏の中被写体を探す・・・

「何も考えずにできたことを違う切り口で試してみる」

私の春はその挑戦でした。自宅周辺の人が訪れない雑木林の中、木洩れ日のあたる場所に小さな世界がありました。

今回の機材は小さなものを拡大できる「マクロリングアダプター」というものを、いつものレンズに追加してあります。1~2cmの名もなき、小さな花を画面いっぱい撮影することで、普段見過ごしていた足元の小さな世界を発見できました。

しかし、残念なことですがこの写真の「名もなき花」。紙面掲載までの期間いろいろ調べましたが、私の力では名前がわかりませんでした。

【撮影データ】

カメラ：Nikon Df
絞り：F11、シャッター速度：1/500

ISO：800
レンズ：Nikkor 24-120mm F4G ED VR

まずは、朝・夕1回!!

医療法人啓仁会 所沢ロイヤル病院 (埼玉県所沢市) リハビリテーション科(作業療法士) 麦倉理恵、藤本秋帆、小池志穂、曾我部優花

みなさま、いかがお過ごしですか?世の中はコロナウイルスの影響により「STAY HOME」が広まっていますね。ずっと家で過ごしていると「今日は誰とも話していないな...」「運動不足で体力落ちたな...」と感じる事はありませんか?

そんな今おすすめしたいのが「コグニサイズ」です。コグニサイズとはコグニション(認

知)とエクササイズ(運動)を組み合わせた造語です。コグニション課題とエクササイズ課題を同時に行うことで、脳と体の機能を効果的に向上させることを狙うものです。

ポイントは・毎日実施する ・やや難しいくらいの課題の選択 の大きく分けて2つです。

今回は2つの体操を紹介します。

ご家族と一緒に・・・施設でも・・・もちろんお一人でも、是非実施してみてください。出来そうで出来ない感覚が、楽しくて癖になってしまうかもしれませんよ。

このお便りが届く頃には、屋外で陽を浴びながらみんなで体操をしているかもしれませんね、「きっと」。

座ってできる体操



①右手足を外へ

②右手足を上へ

③左手足を上へ

④左手足を外へ

《座ってできる体操》

- ①右手足を外へ
- ②右手足を上へ
- ③左手足を上へ
- ④左手足を外へ

この①～④を5周行います。

《立ってできる体操》

「日・土・金・木・水・火・月」の順番で、曜日を逆から言いながら、足を左右へ交互に開きます。

これを3周行います。

「20・19・18・・・」のように、20から1に向かって数えながら、足を後ろへ交互に開きます。

※1 立って行う場合は、転倒防止のため椅子や手すりを使用しましょう。

※2 痛みを伴う場合は、無理せず実施を中止しましょう。



立ってできる体操



「日・土・金・木・水・火・月」の順番で、曜日を逆から言いながら、足を左右へ交互に開きます。

地域医療連携部のユニフォームが新しくなりました

医療法人啓仁会 平成の森・川島病院 (埼玉県川島町) 総務課 松尾 篤

約5年間着用してきました桃色でお馴染みの地域医療連携部のユニフォームが4月より新しくなりました。



左から小岩井室長、吉田 MSW、齊藤 MSW

新たなユニフォームは安心や調和、そして明るい印象を与えるターコイズブルー色で、元気良くアクティブ且つ爽やかなデザインになっています。

約5年ぶりとなるユニフォームの変更だった為、数十種類もの候補から部内にて連日議論を重ねて今回のユニフォームに決定いたしました。

アシンメトリーの衿元が開放感を感じさせ、両腰ポケットにある配色がさりげないオシャレポイントになっています。生地は通気性が良く、伸縮性にも優れた素材でできており、動きやすく快適な着心地です。またポケットが複数あり収納力バツグンなところも特徴

となっています。

院内からは「スタイリッシュで更に明るい感じになった」等々、好評のお声を頂いております。

地域医療連携部は新しいユニフォームに身を包み「フェイス to フェイス」「ハート to



誠心誠意取り組んでいます。

ハート」を大切に患者様やご家族に寄り添った相談や入退院支援に日々努めています。

入職のご挨拶

医療法人啓仁会 石巻ロイヤル病院 (宮城県石巻市) 医師 平上 健

本年5月1日付けで石巻ロイヤル病院に入職しました平上健です。

専門は整形外科で最近ではもっぱら高齢者の下肢を中心とする骨折の手術加療をしておりました。標準的な治療の習得は勿論、合併症の発生が目立つとされる骨折に関しては多数派の治療に拘らずベストを模索してまいりました。大腿骨近位部の骨折に対する独自の工夫

に関しては第一報が済みましたが、脛骨遠位の国内発表に関しては意見の独自性をこのまれない学会関係者が多いようで発表に難渋をしております。

周囲の方々と積極的にコミュニケーションを図り、自分が興味のある分野を伝え、できるだけ長く勤務できたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



医師 平上 健

吉祥寺南病院 外科診療体制について

医療法人啓仁会 吉祥寺南病院 (東京都武蔵野市) 消化器外科 外科部長 阿南 匡



消化器外科 阿南外科部長

どちらの施設も新型コロナウイルスによる甚大な影響を受けておられるかと思えます。当院も同様ではございますが、体制を常に整え地域医療への役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。

吉祥寺南病院外科では、常勤医2名(山下院長・阿南)、非常勤医、森武生医師(当院顧問、前都立駒込病院院長)、鈴木裕医師(国際医療福祉大学附属那須塩原病院副院長)、吉川貴久医師(荻窪病院消化器外科医長)で診療を行っています。今回は当院の外科の診療内容をご紹介します。

【一般外科領域】

いわゆる外傷による傷、切創などに対する処置、縫合から皮下膿瘍の切開排膿など、広く対応しております。動物咬傷や汚染創の処置、ことに蜂窩織炎や深部感染を併発している症例についても、皮膚科、整形外科と協力し診療を行っています。また、当院では形成外科の非常勤医師もあり、創傷治癒に難渋

しているケースがあれば、形成外科とも連携しフォローアップをしています。

【上部消化器疾患】

上部消化管内視鏡検査が可能です。健診で異常を指摘された方や、心窩部痛や胸やけなどの消化器症状が強い方にも極力お待たせせず内視鏡を含めた各種精査を提供しております。経口・経鼻内視鏡ともに対応しており、拡大狭帯域光観察も可能です。ヘリコバクターピロリ感染に対する診療や、増加傾向にある逆流性食道炎等の食道疾患、機能性ディスペプシア等の機能性胃腸症と呼ばれる疾患に対し、内視鏡検査ほか、画像診断、投薬治療を行っています。

【下部消化器疾患】

当院では、ほぼ毎日大腸内視鏡検査枠を組んでおり、極力お待たせしない内視鏡検査を実施しております。日帰り治療から短期入院治療まで患者様の全身状態に合わせ治療を行っています。ADLの低下した患者様でも、大腸内視鏡検査が望ましい症状をお持ちの方には積極的に検査を実施しています。

この他にも、一般的に腹部症状に対し、緊急入院を含め、幅広く対応しております。症状に応じて外来保存的加療から入院・手術加

療まで行っております。また、特に虫垂切除術は適応を吟味した上で腹腔鏡下虫垂切除術も行っております。また、内痔核などの肛門疾患は、症状が長期に渡るケースも多く、保存的治療から外科的な治療まで行っております。肝胆膵疾患、鼠径ヘルニアについても患者さまと相談の上、最適な治療法を決定してまいります。

当科では近隣の医療機関の皆様と連携を図り、地域で対応できる疾患については極力地域で精査・加療が行えるように努力してまいります。法人内外の皆様からのご指導、ご意見を引き続きよろしくお願いいたします。



内視鏡検査の様子
患者様の全身状態に合わせ治療を行っています

ビデオ面会をはじめました

医療法人啓仁会 平沢記念病院 (埼玉県所沢市) 相談室 主任 伊與 悠子

当院は新型コロナウイルス感染予防対策として2月末から面会制限(原則禁止)を行っております。面会制限継続中の5月19日から22日にかけてオンラインシステムによるビデオ面会を試みました。初めてオンラインを使って予約から実施を行いました。一人でも多くの方に面会をして頂きたく、一時間半の中で一人10分という制限時間を設け、1病棟9人を想定して予約枠を組みました。実際は人数オーバーとな



ベッド上からオンラインで面会をして頂きました

り、予定時間の延長や別病棟の時間枠の中で再調整する等して対応しました。当日は相談員が患者様ご家族と電話をしながらパソコンの操作方法を説明したり、音声が聞こえなかったりとトラブルもありましたが、音が聞こえなくても顔が見えた、少しでも本人の声が聞こえた等ご家族から温かい言葉を頂きました。ビデオ面会を行った翌日に永眠された方がいらっしゃいましたが、ご家族から最期に顔が見えてよかったと

のお言葉をいただき、患者様と家族をつなぐお手伝いができてよかったと思えました。

今回のビデオ面会では準備や当日の動きなど相談員だけではなく医師や病棟スタッフが協力し合い、スタッフが一体となって動けたのではないかと思います。6月もビデオ面会と病院の入口を使った対面形式で行う入口面会の調整を行っています。世間ではソーシャルディスタンスを保った新しい生活様式の模索が取り沙汰されております。当院でも従来の面会や面談の方法に加え、オンラインといった新しい方法も患者様に提案しながらサービス向上に努めていきたいと思っております。